

2021年6月14日
住友生命保険相互会社

～多様な人財活用の推進～ 戦略的なタスクの解決に向けた管理職の新設について

住友生命保険相互会社（代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、社会やマーケットの変化に対し、機動的に対応する観点から、固定的な「組織」を持たない新たな管理職「タスクフォースマネージャー」を新設します。

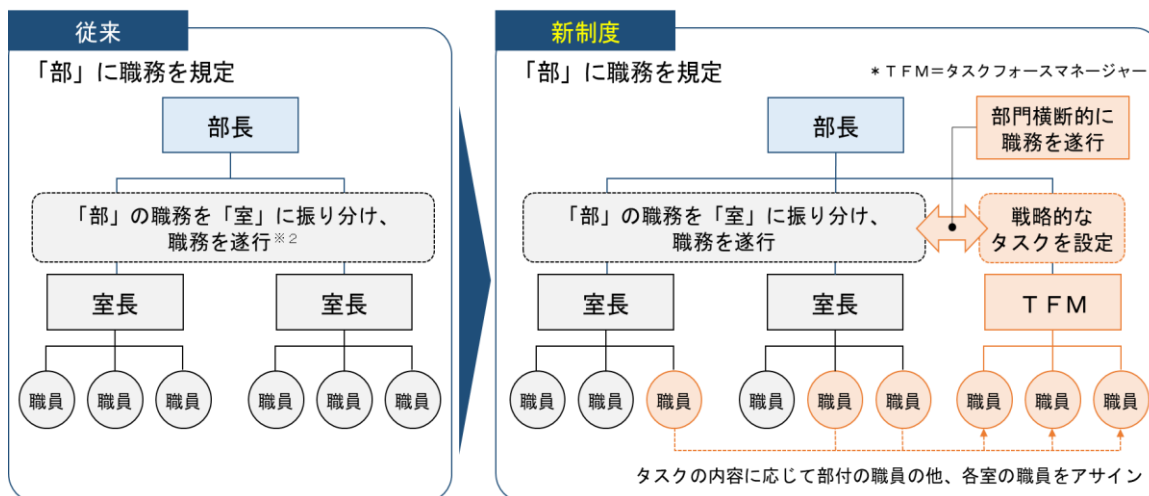
1. 「タスクフォースマネージャー」の概要

人口構造の変化や、DXの進展、働き方改革の推進など、社会やマーケットは今後も加速度的に変化していくことが想定されます。住友生命の本社組織では、基本的に「部」の傘下に「室」を設置し、「室」単位で職務等を明確化していますが、このような外部環境の変化に対し、より柔軟かつ迅速に対応していくために、様々な課題（タスク）に応じた機動的なチーム組成を行い、そのチームリーダーに「タスクフォースマネージャー」を任命することで、課題解決に取り組んでいきます。

「タスクフォースマネージャー」には、室長職と同等の権限を付与し、専門性や能力のある若手・女性等、多様な人材を積極的に登用します。

a. 配置イメージ

戦略的なタスク^{※1}を遂行する場合、新たに「室」を設置するよりも臨機応変に部内横断的に職務を遂行の方が効率的であり、任命した「タスクフォースマネージャー」のもと機動的にメンバーをアサインさせ、課題解決にあたります。



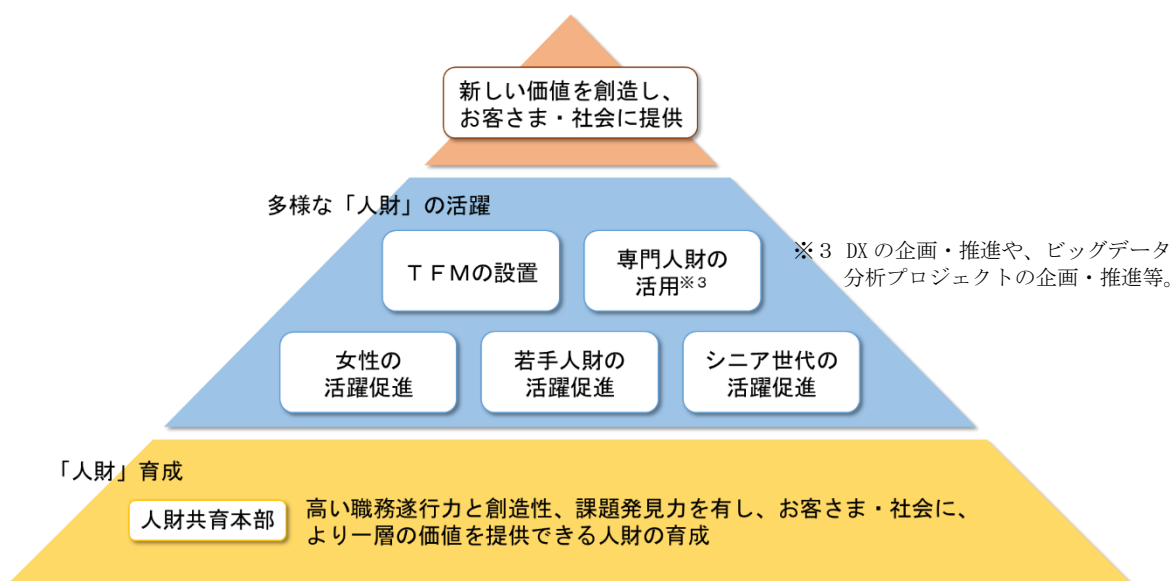
※1 まずは、CVCファンドを通じたイノベーション創出に向けた取組みや、GHG排出量ネットゼロ実現に向けた取組み等を推進するタスクフォースマネージャーを配置します。

※2 一部、部付き職員もあり。

2. 住友生命の人財（人材）戦略について

住友生命では4月から社長直轄の「人財共育本部」を立ち上げ、新しい価値を創造できる「人財」づくりに向けた中長期的な戦略の検討を開始しています。

こうした「人財共育」をベースに多様な人財の活用を図り、お客さま・社会に新しい価値を提供することで、中期経営計画で掲げる「社会になくてはならない保険会社」を目指します。



以上